



白と黒の碁石を真剣な表情で碁盤へ打ち込む。今回は、囲碁をこよなく愛する『多古町愛碁会』を紹介しします。

囲碁は、白と黒の碁石を交互に打ち合いながら、自分の石で囲んだ領域の広さで競い合います。単純に石を打つだけでなく、囲むことで相手の石を取ることができるので、先を読む判断力が必要とされます。

昭和60年に囲碁の愛好家たちが自然に集まり発足した『多古町愛碁会』。月1回の対局を楽しみに、町外からもメンバーが集まってきます。

碁石はどこに置いてもいいというルールになっていますが、奥が深く単純にはいきません。そんな囲碁を中学校の体験学習や多古第一小の

サークル CIRCLE ZUKAN 鑑

第60回

囲碁サークル

『多古町愛碁会』

- ①活動歴 25年
- ②年齢層 50代～80代の男性
- ③活動場所 役場附属棟和室
- ④活動時間 毎月第4土曜日
9:00～15:00
- ⑤代表者 品川竹夫(しながわたけお)
- ⑥連絡先 大木 ☎090-8050-3070

クラブ活動で、縮小版の碁盤を用いて伝授する活動も行っています。

日本では減少している囲碁人口ですが、世界的には増加しており、特に中国や韓国、台湾などで盛んになっているそうです。最近では、インターネットでも対局ができるため、いつでも、どこかの国の人とでも囲碁を楽しむことができます。

また、コンピューターとも対局できますが、局面がとても複雑なため、コンピューターが人間に勝つことは難しいようです。

「日本の文化的な活動であり、今まで続けてきてくれた皆さんのためにも継続させていきたい」と話す会長の品川さん。一緒に楽しく囲碁を打ってみませんか？



編集後記

★9月4日(土)に行われた多古中学校の『体育祭』。猛暑の中、全校生徒が赤軍と白軍に分かれて熱戦を繰り広げました★さまざまな競技が行われた中で最も印象に残ったのは、両軍による「応援合戦」。団長を中心とした息の合ったパフォーマンスと、勝利を目指して心の底から声を出す姿は、まさに多古中学校の「団結力」そのものでした★今年は大接戦の末に白軍が優勝を飾りましたが、勝敗にかかわらず、真剣勝負の末に流す生徒たちの涙に、強く心を打たれました★体育祭の成功を支えてくれた先生方やPTAの皆さん、そして心に残る一日を届けてくれた生徒の皆さんに、心から拍手を送りたいと思います。

★いよいよ千葉国体・千葉大会が開幕。多古町からも9人もの選手が出場。地元での開催で応援にも気合いが入ります★町ではデモンストレーションとして「綱引競技」が開催。なぜか自分と同僚、そして友達までもが知らぬ間に選手として登録されてしまい、練習までさせられることにー★腕が肩より上がらないと言っている同僚が戦力となるのか？メンバー選抜した同僚さんに戦力外通告してもらおうとしても聞いてもらえず★でも千葉国体・千葉大会を盛り上げるため、力いっぱい綱を引くことに決めました！けがだけはしないよう頑張ります！！